

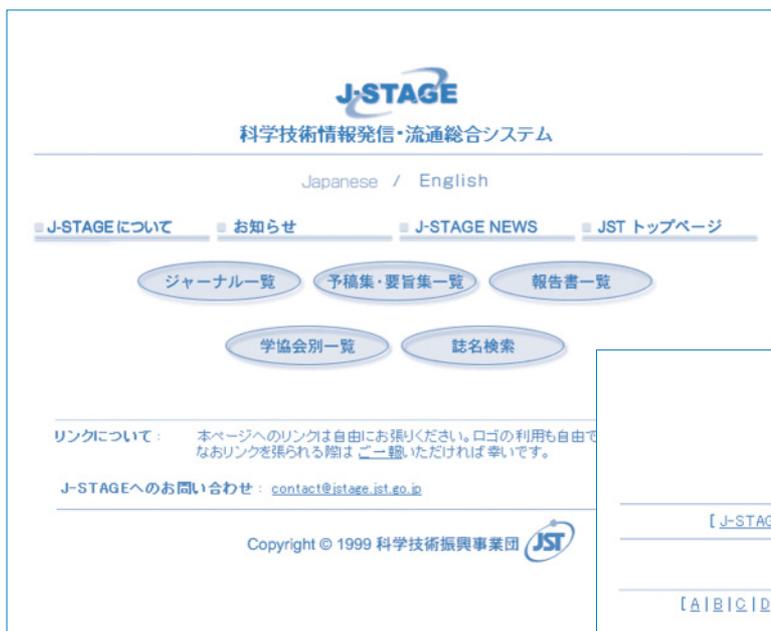


J-STAGEの公開ページが変わります

JSTではJ-STAGEの公開について、「シンプルで分かりやすい」ことを第一の目的として、現在のWebページデザインでの公開を行って参りましたが、(1)掲載しているジャーナル数が増えてきたこと、(2)ジャーナル以外の大会予稿集や報告書の掲載に対応する必要があること、等の理由により、Webページのデザインを改良することといたしました。改良の主なポイントは以下のとおりです。

1. 現行のトップページでは、お知らせの下にJ-STAGEに搭載されている全てのジャーナルの一覧が表示されていましたが、新しいトップページは、「ジャーナル一覧」「予稿集・要旨集一覧」「報告書一覧」「学協会別一覧」「誌名検索」の5つのボタンからなり、それらをクリックすることにより、一覧画面が表示されるようになります。これにより、トップページがすっきりと整理されると同時に、今後掲載される「予稿集・要旨集」「報告書」等、ジャーナル以外の形態をジャーナルと区別して参照することが可能になります。
2. 「誌名検索」機能を新しく設け、誌名中の単語で検索を行うことができます。これにより、正確な誌名を覚えていなくても目的とする雑誌を簡単に探し出すことができます。
3. 「ジャーナル一覧」「予稿集・要旨集一覧」「報告書一覧」「学協会別一覧」の各画面では、アルファベット順、50音順のインデックスを付与し、インデックスをクリックすることにより該当するジャーナルが表示されるようにします。
4. 「学協会別一覧」を設けることにより、学会名からジャーナルを見つけることが容易になります。
5. 現在、紙のみで発行しているJ-STAGE NEWSのPDFファイルをWeb上で閲覧できます。

以上、様々な点での改良を行った新しいWebページは10月17日にリリースする予定です。使い勝手等についてご意見をお寄せいただければ幸いです。



トップページ



ジャーナル一覧画面



「予稿集公開システム」のサービスを開始いたします

平成12年度に提供を開始して以来、皆さまにご利用いただいております大会演題登録システムですが、この度大幅に機能を強化いたしました。これまでの大会演題登録システムでは、

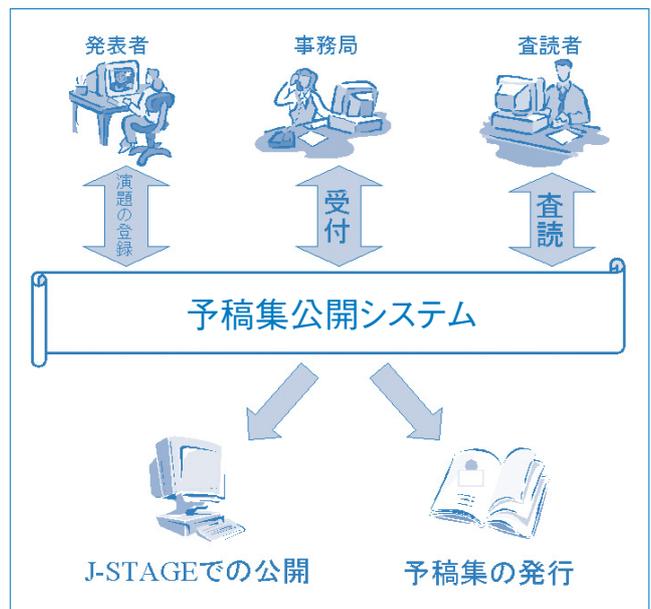
- (1) 発表者が演題を登録する（変更、削除も可能）。
- (2) 事務局が受理、不受理の結果をメールで発表者に連絡する。
- (3) 事務局が登録された演題データをダウンロードする。（XML形式、またはCSV形式）等のサービスを提供していましたが、今回の機能拡張により以下の機能が実現します。
- (4) 演題データからPDFファイルを作成する。
- (5) 演題データ（XML形式データ+PDFファイル）を元に作成した予稿集をJ-STAGE上で公開する。

これにより、演題の登録から予稿集の公開まで、一連の流れでシステムをお使いいただくことが可能になります。また、今回のシステムの拡張に伴い、従来の「大会演題登録システム」を「予稿集公開システム」と改め、より多くの学会の皆さまにご利用いただけるように、今後も使いやすいシステムを目指して参ります。

この予稿集公開システムは、全ての機能をお使いいただくことも、従来の演題登録機能のみをお使いいただくことも、更には予稿集公開の部分だけをご利用いただくことも可能です。大会の運営状況に合わせて、必要な部分をご利用いただければと思います。

予稿集公開の最初のケースといたしまして、当事業団で毎年開催しております情報科学技術研究集会（今年は10月18日～19日にかけて、日本科学未来館で開催いたします）の予稿集を今年からJ-STAGEに搭載いたします（本文PDF、引用文献をご覧いただくには研究集会の参加者に配布されるIDとパスワードが必要です）。

大会支援システムについてのお問い合わせをお待ちしております。



予稿集公開システムのフロー



利用統計機能をサポートします

J-STAGEをご利用いただいている学会の方々から、J-STAGEに搭載したジャーナルがどの程度読まれているのか知りたいというご要望をいただいております。その様なご要望にお応えするために、今年度下期より利用統計機能をサポートいたします。これはジャーナル毎にPDFファイルがダウンロードされた件数を、論文別、国内外別（ドメイン名の第1レベルがjpか否かで区別）で集計し、毎月、予め登録していただいた担当者の方に、CSVファイルをメールにてお送りするものです。合わせてジャーナルトップページのアクセス数もお知らせいたします。

10月分（11月初めに送信）からのリリースを目指して開発を進めております。リリース時期が近くなりましたら、登録を希望されるe-mailアドレス等につきまして、お問い合わせさせていただきますので、よろしくお願いたします。



引用リンクの進捗状況について

昨年度から積極的に進めております、引用文献リンクに関する外部機関との調整ですが、CAS（Chemical Abstracts Service）のChemPortからJ-STAGEへのリンクについては、実際のサービス開始に向けて、テストを進めております。また、CrossRefにつきましても参加に関しての交渉を進めております。10月には両機関を訪問し、更に具体的に話を進める予定です。



登録誌が増えました

9月18日現在、J-STAGEに登録されているジャーナル数は、46誌です。

J-STAGE NEWS No.2 (2001年6月30日発行)でお知らせいたしました「J-STAGEで公開している雑誌一覧」から増えたジャーナルは、下記の4誌です。

ジャーナル名	学会名
Journal of Bioscience and Bioengineering	(社) 日本生物工学会
Polymer Journal	(社) 高分子学会
日本化学会誌	(社) 日本化学会
分析化学	(社) 日本分析化学会

【お詫びと訂正】J-STAGE NEWS No.2の「J-STAGEで公開している雑誌一覧」に誤りがございました。Japanese Journal of Applied Physics 誌の発行学協会名を「物理系学術誌刊行協会」と掲載いたしましたが、正しくは、「(社) 応用物理学会」でした。この場を借りて訂正させていただくとともに深くお詫び申し上げます。



DATABASE 2001 TOKYO、国際新技術フェアにJ-STAGEを出展

2001年10月30日(火)～11月1日(木)に東京国際フォーラム 展示ホール(東京都千代田区丸の内3-5-1)において開催される『DATABASE 2001 TOKYO』と11月13日(火)～15日(木)に東京国際展示場(東京ビッグサイト)にて開催される『第3回 国際新技術フェア』にJ-STAGEを出展いたします。『DATABASE 2001 TOKYO』、『国際新技術フェア』は、前回も3万人を超える来場者のあった大規模な展示会です。J-STAGE以外にも数多くの興味深い展示がございますので、ぜひご来場いただきますよう、ご案内申し上げます。なお、数に限りがございますが、『DATABASE 2001 TOKYO』につきましては、招待券がございますので、ご希望の方は、ぜひお問い合わせください。



新しいスタッフの紹介

9月より電子ジャーナル部門の新しいスタッフとして、中川 理(ナカガワ オサム)が加わりました。今後、皆様にお目にかかる機会もあるかと思えます。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

■ 編集後記 ■

♪学協会様の電子ジャーナル発行のお手伝いが少しでもできればと、J-STAGEの利用促進に日々取り組んでいます。やるべきことは盛りだくさんですが、これからも学協会の皆様と一緒にJ-STAGEを育て、世界に誇れる電子ジャーナルサイトにしたいと熱望しています。引き続きご支援の程よろしくお願いいたします。(ほ)

♪J-STAGEを担当するようになってちょうど1年。電子ジャーナルの重要性、J-STAGEの有為性に対する世間の認識は、1年前に比べて格段に高くなってきています。今後とも皆様のご期待にそえるようJ-STAGEの強化に努めていきます。(ま)

★J-STAGEおよびJ-STAGE NEWSに関するご意見・ご質問をお待ちしております。

JST情報加工分析部 電子ジャーナル部門 (contact@jstage.jst.go.jp)

J-STAGEニュース No.3 2001年9月30日

J-STAGE

<http://www.jstage.jst.go.jp>

編集 科学技術振興事業団 情報加工分析部 電子ジャーナル部門

発行人 情報加工分析部長 西田龍正

住所 〒102-0081 東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ

電話 03-5214-8455 (ダイヤルイン)